

要旨

コロナ禍での就職活動 ーコロナウイルス前後の変化ー

加藤 呼汰

目的:本研究の目的は、新型コロナウイルスの影響による就職活動の変化を明らかにすることと、近年の就職活動状況と比較して新たな課題の発見、就活生個人個人の特徴や傾向による対策を調査し、今後の就職活動に及ぼす影響を明らかにすることである。

方法:調査対象者は、2022年卒業予定の大東文化大学4年次、男61名、女28名、不明(無回答・未回収14名)、合計103名であった。アンケート結果を元に、クロス集計を行い関係性を導き出す。

結果:アンケートの結果、対面式の面接が68.5%、オンライン式の面接が31.5%行われていた。対面式の面接の面接とオンライン式の面接で、手ごたえを感じる割合はばらつきが見られた。ストレスを感じる面接形式は、86.5%と圧倒的に対面式の面接であった。面接の手ごたえを男女別で見ると、男性はばらつきが見られたが、女性は28人中19人がオンライン式の面接という回答結果であった。性格別で内気・ネガティブ・人と話すのが苦手な性格の学生は、オンラインによる面接を好む傾向が見られた。

結論:今後の就職活動において、オンラインによる面接は継続される予想がついた。時間の有効活用や面接対策など各面接に応じて対応できることが必要になる。それぞれの面接形式によりメリットやデメリットに違いがあり、学生の性別と性格により得意不得意が別れる傾向があった。今後の就職活動では、自分自身の性格を理解した上で面接形式によって注意することや意識を持つポイントを上手く活用する必要がある。